

(社) 日本原子力学会
第 93 回倫理委員会議事要旨

日 時 平成 28 年 9 月 28 日 (水) 13:30～17:30
場 所 原子力学会 事務局会議室
出席者 大場委員長、三村副委員長、宇奈手幹事、伊藤委員、金山委員、出町委員、中野委員、中村委員、福家委員、宮越委員、宮澤委員
田中特別委員、布目特別委員 (13 名：委員名簿順)
北村氏、原田氏 (オブザーバー)

配布資料

- 資料93-1：第92回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料93-2：2016年秋の大会企画セッション報告資料
- 資料93-3：2017年春の年会企画セッション関連資料
- 資料93-4：2016年度倫理研究会関連資料
- 資料93-5：再稼動に係る審査、承認の事例集に関する資料
- 資料93-6：倫理規程見直しに関する資料
- 資料93-7：入退会関連資料
- 資料93-8：倫理規程英訳に関する資料

議事

1. 資料 93-1 により、前回議事要旨 (案) を確認し了承された。なお、下記について補足があった。
 - ・ 今後の春の年会および秋の大会では、事例集を受付でも販売することとする。
 - ・ 技術倫理協議会シンポジウムにおける講師の推薦依頼があったが、諸事情により不要となった。
2. 資料 93-2-1～3 により 2016 年秋の大会企画セッションの結果報告があった。アンケート結果および参加した委員の感想から、企画セッションにおけるディスカッションを上手く運営することが重要であるとの指摘があり、以下の議論が行われた。
 - ・ 現状の運営では講演に関する質疑応答となってしまう、フロアーを交えたディスカッションは難しい。
 - ・ ディスカッションするためには参加者が予めテーマに対して検討しておくことが必要であり、事前のキーワードや骨子の開示が不可欠となる。
 - ・ 講演の前に、委員会から 5 分程度の説明を行い、講演と倫理規程を関連付けることも考えられる。
 - ・ 企画セッションと倫理研究会と併せて位置付けを明確にし、全体として効果的に運営することが望ましい。
 - ・ 結論として、企画セッションは倫理を広める機会、倫理研究会は一定レベルの会員の意識や考えを深める機会と位置付け、講演内容の関連付けを行っていくこととした(下表参照)。なお、倫理研究会は近年 1 回/年の頻度となっていたが、2 回/年にし、うち、1 回は“意識や考えを深める機会”とし、別の 1 回は事例集を使ってケーススタディを行うこととする。

企画セッションと倫理研究会の運営改善

		企画セッション	倫理研究会
時間		1時間30分(ディスカッションの時間の確保困難)	半日(ディスカッションする時間の確保可能)
対象		年会/大会参加者	全委員+α
ポイント		他の企画セッションと比較されながら参加される。(来てもらうためには「倫理」以外の魅力が必要)	倫理に興味がある人(一定のレベルのある会員)が参加される。
改善	位置付け	倫理を広める機会	一定レベルのある会員の意識や考えを深める機会
	運営	・講演内容を倫理規程に照らし合せて説明 ・研究会の案内	・ディスカッションなどを充実(そのための施策が必要)
		企画セッションと倫理研究会の運営を一体化し、講演内容の関連付けを行っていく。	

3. 資料93-3及び-4により2017年春の年会企画セッション及び2016年度倫理研究会のテーマについて検討し、以下の議論が行われた。
 - ・ 学会内部では「東日本大震災以前は、学会内で自由な議論ができていたのか」という課題を考えている。これを倫理的観点でアプローチすることが必要。
 - ・ 良好事例を上手く使って倫理を浸透させることも考えたい。但し、良好事例と倫理規程の繋がりを上手く表現する必要がある。
 - ・ 結論として学習院大学櫻井教授に企画セッションと倫理研究会の両方の講演を依頼する方向で調整する。
 - ・ 企画セッションにおいては、講演内容と倫理規程の関係を示すような骨子を作成する。
 - ・ 予定していた倫理研究会は企画セッションの後に設定するが(5~6月頃)、更に事例集(良好事例)のケーススタディを扱う別の倫理研究会を1月下旬から2月中旬に追加実施する。
4. 資料93-5に基づき再稼動に係る審査、承認の事例集に関する協議を行い、以下の議論が行われた。なお、調査途中ということもあり、今回は中間報告の位置付けであった。
 - ・ 規制側の考え方を分析するために、有識者会合の内容を順次調査しているが、原電敦賀は事前会合からのプロセスを一旦やり直しており、他のプラントと扱いが異なっている。このような状況も含めて考察して行く必要がある。
 - ・ 有識者会合の内容調査を更に進めて詳細な遣り取りを追求するよりも、倫理的観点での課題抽出に注力する方が良いと考える。
 - ・ 結論として、4~5人のタスクチームを作り、年内を目処に纏める。その結果を踏まえ、倫理委員会としての発信要否を、年度内を目処に判断することとした。
5. 資料93-6に基づき倫理規程見直しに関する協議を実施した。全体的なバランスを見ることも重要なので、各委員にて再度倫理規定を俯瞰し、見直しのアイデア出しをすることとなった。各委員から出されるアイデアは、見直し担当にて集約する。
6. 資料93-7により原田氏の倫理委員立候補があり了承された。次回の理事会にて報告される予定。
7. 資料93-8により倫理規程の英訳案が紹介された。本日欠席の委員も含めて、委員長取り纏めにて1週間を目処にレビューする。
8. 次回の倫理委員会は、H28年11月15日(火)13:30~(場所未定)とした。

以上